



高層団地に囲まれた公園の水田で 小学生が田植えを体験！

事前のお知らせ

と き 5月19日(木)午後1時30分～2時30分、20日(金)午前9時30分～午後2時30分

と ころ 区立秋の陽(あきのひ)公園(光が丘2-5-2)

19日と20日、区立秋の陽公園の水田(約500㎡)で、近隣の区立小学校5校の5年生児童が、田植えを体験する。都会では貴重な体験である田植えを通して、子どもたちにお米の大切さを知ってもらうことを目的に、同公園の開園(昭和63年)以来、毎年実施しており、今年で29回目を迎える。

参加する子どもたちは、区職員から田植えの方法や、稲の成長過程について説明を受けた後、裸足で水田に入り、田植えを行う予定。

水田を管理する東部公園出張所は、「児童に田植えを楽しんでもらうのが一番だが、大変な作業でもある田植えを経験することで、毎日のように食べているお米のありがたみを感じてもらいたい」と話している。今回植えた苗は10月ごろに刈り入れ、約120キロ(例年)のもち米となり、各学校で餅つきや給食で味わう予定。



昨年の実施風景

【田植え体験の流れ】

区職員が水田に入り、苗の持ち方から植え方まで田植えの手順を説明する。一通り説明が終わると、7～8人の児童が一人10株の苗を持ち、水田の中で一列に並ぶ。足跡でくぼんだ場所の泥を平らにならしながら、等間隔に植えられるように張られたロープ沿いに、苗を植え付けていく。

【田植え後の予定】

田植え後は、東部公園出張所が水田を管理する。苗は順調に生育すると9月下旬から10月初旬に稲刈りの時期を迎え、約120キロのもち米として収穫する予定。収穫後は、学校で餅つき大会などに使用する。



昨年の実施風景

【区立秋の陽公園について】

「田んぼのある公園」として親しまれている区立秋の陽公園(面積約18,200㎡)は、昭和初期の豊かな水田の広がる生活風景をイメージして作られた。あぜ道で6面に分けている約500㎡の水田や、農家の長屋門を模した正面入口などが特徴。苗の種類は「ヒデコモチ」という種類のもち米。

【参加児童数について】

今年の田植えは、区立小学校5校の5年生が参加する。19日は光が丘夏の雲小89名、光が丘秋の陽小58名、20日は光が丘春の風小78名、光が丘四季の香小80名、光が丘第八小38名が体験する予定で、両日合わせて343名の児童が田植えを体験する。